

2025年6月5日

報道関係者各位

一般社団法人 短鎖脂肪酸普及協会
株式会社バカン

**トイレ広告「アンベール」を活用した「短鎖脂肪酸」の認知向上プロジェクトを実施
～15.5ポイント認知率は向上し理解度は3倍に！理解促進による実践意欲の向上も～**

一般社団法人 短鎖脂肪酸普及協会（所在地：山形県鶴岡市、代表理事：福田 真嗣、以下「短鎖脂肪酸普及協会」）と、AI技術で混雑を可視化し、「人と空間を、テクノロジーで優しくつなぐ。」をミッションに、施設・エリアを支えるプラットフォームを活用したサービスを提供する株式会社バカン（本社：東京都千代田区、代表取締役：河野剛進、以下「バカン」）は、「短鎖脂肪酸」の認知理解状況についての調査を実施いたしましたので、結果を報告いたします。

本調査は、バカンが展開するトイレ広告「アンベール」を活用し、2024年12月末から2025年3月までの3ヶ月間にわたって「短鎖脂肪酸」に関する研究データを配信した結果の視聴者の認知理解状況を調査したものです。

■調査背景

短鎖脂肪酸は、腸内環境や健康維持に関わる注目成分でありながら、一般消費者の認知度・理解度は依然として低く、ヨーグルトを日常的に摂取する層でも「名前は聞いたことがある」が約半数にのぼる一方、「短鎖脂肪酸が何なのかを理解している」人は約2～3%にとどまっています。※1

この“認知と理解のギャップ”を埋めるべく、短鎖脂肪酸普及協会とバカンは、腸活に関連する情報の発信に最適な空間であるトイレ広告「アンベール」を活用し、短鎖脂肪酸の理解度向上を目指した共同プロジェクトを実施しました。

※1 短鎖脂肪酸普及協会調べ： <https://scfa.or.jp/news/presentation>

【調査概要】

- ・ 目的：「短鎖脂肪酸」の認知・理解状況の確認
- ・ 調査対象者：アンベール設置男女トイレ個室利用者
- ・ 調査方法：アンベール画面上のQRコード経由でWEB回答
- ・ コンテンツ配信期間：2024年12月23日～2025年3月2日
- ・ アンケート期間 2025年2月3日～2025年2月16日
- ・ 回答人数 2,352名（女性1,237名、男性1,115名）

【配信コンテンツ概要】

2週間毎にコンテンツを切り替え、腸内フローラの初歩的な説明から、短鎖脂肪酸の基礎的な解説、短鎖脂肪酸がもたらす健康機能とその作用機序まで、3ヶ月間に渡ってストーリーとして伝えることで、短鎖脂肪酸を意識した生活の重要性と実践方法の理解を促すコンテンツを目指し配信いたしました。

■調査サマリ

アンベールによる3ヶ月間の情報配信の結果、短鎖脂肪酸の「認知度」および「理解度」の双方において顕著な向上が認められました。特に成分の効果効能に対する理解度は約1.9倍となり、さらに体内への摂取および産生方法についても非視聴者に対して3倍の数値となりました。

1. 短鎖脂肪酸の認知度・理解度の向上

配信後、短鎖脂肪酸の「効果効能を理解している」割合は約1.9倍。効果効果のみならず「摂取/産生方法まで知っている」人の割合は3倍と大幅に増加しました。

「名前を聞いたことがある」：
 視聴者：50.2% (+10.2pt、125.5%)
 非視聴者：40.0%

「効果効能を理解している」：
 視聴者：8.7% (+4.1pt、189.1%)
 非視聴者：4.6%

「摂取/産生方法まで知っている」：
 視聴者：1.8% (+1.2pt、300%)
 非視聴者：0.6%

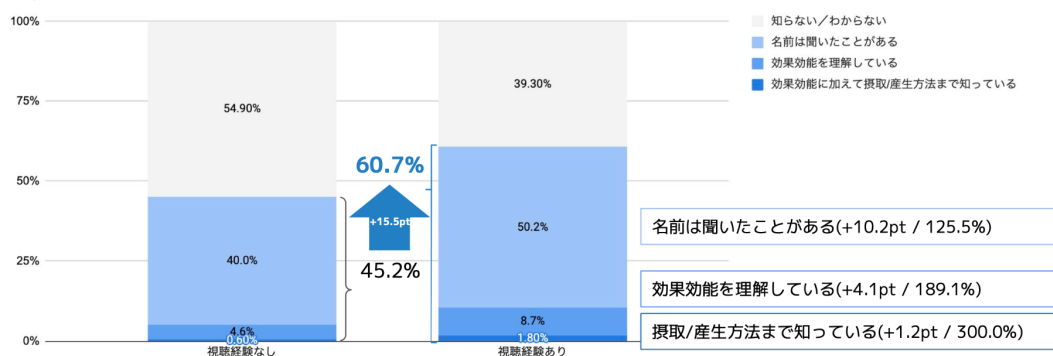
短鎖脂肪酸の認知・理解状況（未視聴者 vs 視聴者）

短鎖脂肪酸の視聴者の認知率は60.7%であり、未視聴者より15.5pt高い

「効果効能を理解している(+4.1pt)」は約1.9倍、「効果効能に加えて摂取/産生方法まで知っている(+1.2pt)」は3.0倍と理解度も高い

短鎖脂肪酸の認知理解状況

n=2,352



UN VEIL

2. 腸活の実践意識にも好影響

腸活の何らかの実践をしている人の割合は視聴者の方が9.0ポイント高く、啓発により実際の行動にも反映されている可能性が認められました。

（「たまに実践している」+3.5pt、「実践している」+5.5pt）

視聴者：74.1%
 非視聴者：65.1%

また、広告を視聴した層の約3割が短鎖脂肪酸が産生される「仕組みの理解」にも繋がったとい

う好影響が認められたことから、「知らない→聞いたことがある（認知する）→理解した」のファネル型教育に個室環境という点が有効に働いたと考えられます。また、啓発コンテンツとして、短鎖脂肪酸に関するピンポイントの情報のみならず、腸内フローラの基礎情報をはじめ、配信後半の知的欲求が高まるタイミングにおいては短鎖脂肪酸が健康機能に現れるメカニズム等の普段は深く触れることがない部分にまで踏み込んでお伝えすることで、興味を持つための情報量の担保と段階的な理解の促進に繋がり、結果として実践意欲にも繋がっていると考えられます。

理解度別の違い

「知らない→聞いたことある→理解した」のファネル型教育にトイレ広告が有効

トイレ動画の視聴は理解度・意欲ともに明確な向上効果あり。視聴者の3割が仕組みまで理解。一方で未視聴者は知識の定着が難しい。

		視聴なし	視聴あり	示唆
トイレ広告 視聴軸	意欲率	90.1%	x1.07倍 96.0%	約6ptの上昇。関心喚起に寄与
	理解率	16.9%	x1.76倍 29.8%	約13ptの差で理解度向上の効果顕著

トイレ広告の視聴は「理解度」を高める

		理解度 低	理解度 高	示唆
理解度軸	意欲率	94.7%	x1.03倍 97.8%	理解があると自身も短鎖脂肪酸を産生したいという意欲が高まる
	認知率	49.1%	x1.71倍 84.4%	理解度を一定以上に高めると自ら能動的に情報を得に行く傾向

更に、理解度が高い層の腸活方法としては、「発酵性食物繊維を食べる人」の割合が理解度の低い層と比べて高く、これは、それらの食事が「腸内細菌のエサ」であり短鎖脂肪酸の産生と直結していることまでを理解しているからこそその行動であると考えられます。

理解度の高い人に多い腸活内容（上位傾向）

「発酵性食物繊維」「食物繊維」などの選択者は、理解度の高い層に偏っている

逆に「ヨーグルトを食べる」は両層とも多く、腸活のベーシック行動と見られる。

腸活内容	理解高 (%)	理解低 (%)	差分ポイント (傾向)
発酵性食物繊維を食べる	高い 15~20%	低い 5~10%	短鎖脂肪酸の生成と直結しているため理解者に多い
食物繊維の多い食品を食べる	理解層でも高い	非理解層でもそこそこ高い	基礎的な腸活として全体に広く実施されている
オートミールなどの穀類を食べる	やや理解層に多い		理解の高い層の“意識的な選択”として現れる可能性

■今後に向けて

今回のバカンと短鎖脂肪酸普及協会との共同プロジェクトにより、トイレ個室空間での継続的な情報発信により、短鎖脂肪酸の認知度・理解度の顕著な向上が認められました。また、理解度の向上に伴って実践意欲の向上も確認できることから、意欲が高まった生活者の「短鎖脂肪酸を産生する食選択」をサポートする仕組みや選択肢の拡充、それらの商品流通の活性化が重要であり、本協会をはじめ業界全体で取り組むべき課題であると捉えています。本協会では引き続き、短鎖脂肪酸を軸とする最新の情報を伝え、社会的認知度の向上に取り組むと共に、関連する各ステークホルダーとの架け橋となることで、業界全体の活性化に尽力いたします。

調査レポート全体については以下のURLよりこちらご参照下さい。

<https://bit.ly/3FJkrz3>

■一般社団法人 短鎖脂肪酸普及協会について

団体名：一般社団法人 短鎖脂肪酸普及協会

代表者：福田 真嗣

所在地：山形県鶴岡市覚岸寺字水上246番地2

設立：2024年8月

URL：<https://scfa.or.jp/>

腸内環境改善に重要な「短鎖脂肪酸」の認知と理解を促進することを通じて、「腸から新たな健康リテラシーを構築」し、心身ともに健康な社会の実現を目指しています。

近年、短鎖脂肪酸に関する研究が大きく加速したことにより、その健康効果と有用性が次々に明らかになっています。一方で、アカデミアで得られた知見が社会に伝わるまでには一定の時間が必要です。本協会は公益的な視点に立ち、短鎖脂肪酸に関する最新の情報を「正しく」

「わかりやすく」「広く」伝えることで、社会的認知度の向上に取り組んでいます。また同時に、短鎖脂肪酸に関連するアカデミア、メーカー企業、流通、メディア、行政等の架け橋となることで、業界全体の活性化に尽力いたします。

■株式会社バカンについて

会社名：株式会社バカン

代表者：河野剛進

所在地：東京都千代田区麹町2-5-1 WeWork 半蔵門 PREX South 3F

設立：2016年6月

URL：<https://corp.vacan.com/>

バカンは、経済産業省「J-Startup 2019」選定企業です。「人と空間を、テクノロジーで優しくつなぐ。」をミッションとして、AIで混雑の可視化に加え、まちと暮らしをアップデートするプラットフォームを構築しています。

空間の体験をスマートにアップデートする「混雑・人流マネジメント」や「施設・エリアマネジメント」サービスの提供。トイレ個室メディア「アンベール」の運営などを行っています。

<報道機関向け情報>

本リリースに関するお問合せ先

【一般社団法人 短鎖脂肪酸普及協会】

事務局（担当：長谷川）

メール：contact@scfa.or.jp